八幡堀

八幡堀は、近江八幡の商業発展に大きな役割を果たした人工の水路である。1585 年、八幡山城の防御のためと同時に、琵琶湖と町を結ぶ運河として建設された。この運河と湖を利用した物資の輸送が町の繁栄に貢献し、地元の商人は全国に勢力を拡大することになった。

戦後、八幡堀は運河として利用されなくなり、排水のヘドロで埋まるようになった。1970 年代、市は堀を埋め立てる計画を打ち出したが、町の遺産が失われることを懸念した住民たちは、水路の保存運動を始めた。その努力が実り、かつての美しさを取り戻した八幡堀は現在、伝統的な船に乗って散策することができる。